

保健体育科学習指導案

日時 平成17年10月13日(木)5校時

学級 3年A・C組男子37名

指導者 教諭 小原 星二

1、単元名 器械運動(跳び箱)

2、単元について

(1)教材観

器械運動は、マット・跳び箱・鉄棒・平均台などの器械、器具を用いて、回転、跳躍、支持、けんすい、柔軟、バランスなどで、いろいろな技に挑戦できる運動である。

自己の能力に適した課題を決め、練習の仕方や場の工夫をすることにより、できる技がよりうまくできるようになったり、できそうな技に挑戦してできるようになったりしたときの喜びを味わう事ができる運動である。

さらに、練習や発表を通して筋力や瞬発力、調整力などの体力を向上させることができるとともに、仲間と協力し合う態度や助け合う心を育てる事ができる運動である。

(2)生徒の実態

全般的に教師の話をきちんと聞いて、授業にしっかり取り組むことができる。器械運動に対する興味や関心は、球技などに比較すると高いとは言えないが、いろいろな技に果敢に挑戦する姿勢が見られる。

運動能力は、個人差が大きくなってきており、下位生徒の中には授業に意欲的に取り組むことができない生徒もいる。器械運動のような克服型の運動では、その傾向がさらに顕著に見られるので、個々に応じた目標をしっかりと持たせ、より楽しく授業に取り組ませる工夫が必要である。

また、抽出生徒については、仲間の援助や教師の支援によって、技能の向上を目指させるとともに、積極的な取り組みができるように指導していきたい。

(3)指導観

器械運動の指導では、下位生徒に対する配慮が特に大切である。いろいろな技ができない生徒は授業に対する意欲が持てず、練習なども避ける傾向が見られる。学習カードの活用によって、

個々にあった目標をしっかりと持たせること。

学習の見通しをしっかりと持たせること。

自己評価が次への学習につながるように指導すること。

などが大切である。

また、生徒のつまづきを分析し、その克服のための練習の場の設定を工夫したり、ペア学習やグル・ブ学習を有効に使って、より楽しく意欲的に取り組めるように指導したい。

(4)研究主題との関連

学習カードの有効活用や評価が次の活動へと結びつくよう工夫することによって、生徒一人ひとりが主体的に授業に取り組めるようにしたい。

また、グル・ブ編成を工夫することにより、互いの関わり合いの中でより積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる事を目指したい。

3、単元の目標

[運動への関心・意欲・態度]

- ・技をよりよくできるようにして、跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする。
- ・仲間と協力して、場づくりを工夫し、進んで練習に取り組もうとする。

[運動についての思考・判断]

学習カードを利用しながら、演技する技のポイントを確かめ、よりよくできるようにするための課題を設定したり、練習の場を選んで取り組んだりすることができる。

[運動の技能]

頭はね跳びや前方倒立回転跳びが、安定した動作でできる。

[運動についての知識・理解]

跳び箱運動の学習の進め方や楽しみ方、技のグループの構造などの系統性と発展性を理解する。

4、指導計画と評価基準（本時5 / 7）

次	時	指導目標	関心・意欲 態度	思考・判断	技能	知識・理解
1 学 習 動 機 の 明 確 化	1	オリエンテーション ・運動特性の理解や学習のねらいについて把握する。 ・学習カードの記入のしかたを理解する。	跳び箱運動の特性を知り、技を選択して楽しさや喜びを味わおうとする。 (学習カード・観察)	・準備運動や練習方法を考えることができる。 ・学習課題が設定できる。 (学習カード)		技の種類や系統性、発展性を理解する。 (学習カード)
2 理 解 の 確 認	2	・各グループで考えた準備運動や補強運動に取り組む。 ・既習の技に挑戦する。	グループで協力しあって、準備運動や補強運動、技に取り組んでいる。 (観察)	より効果が上がる準備運動や補強運動を工夫している。 (観察)	安定した技になるよう、練習に取り組む。 (実技・観察)	
3 活 用 場 面 の 設 定	3 本 時 1	各自の目標に従ってより難解な技に挑戦する。 技の発表の準備をする。 発表とまとめの評価	協力して場づくりを工夫しようとする。 一人ひとりの学習成果を認め合い、全体で楽しもうとする。 (学習カード)	場づくりや発表の仕方を工夫し、主体的に活動を進めることができる。 (実技・観察)	より発展的な技に、積極的に取り組むことができる。 (実技・観察)	練習の仕方や場づくりを工夫する。 仲間の発表から参考になる点を学ぶ事ができる。 (自己評価)

5、本時の目標

(1) 目標

頭はね跳びや前方倒立回転跳びの技のポイントを考え、各自の課題にあった練習に取り組むことができる。(思考・判断)

頭はね跳びや前方倒立回転跳びが、安定した動作で跳ぶことができる。(技能)

(2) 本時の評価の観点と具体的評価基準

観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
運動についての思考・判断	自己の課題を的確におさえた上で、課題に適した練習の場を選んでいる。	自己の課題を持ち、練習の場を選んで取り組んでいる。	課題設定の仕方や解決のポイント、練習方法についてアドバイスする。
運動の技能	頭はね跳びや前方倒立回転跳びが、よりよい姿勢で、安定した動作で跳ぶ事ができる。	頭はね跳びや前方倒立回転跳びが、安定した動作で跳ぶことができる。	学習カードや補助を通して、技のポイントを確認したり、練習の仕方をアドバイスしたりする。

(3) 展開

	学習活動・学習内容	留意事項・評価	配布資料・教具
導入 15分	1、準備及び準備運動	・リ - ダ - を中心に準備運動や補強運動に取り組んでいるか。	・マット ・跳び箱 ・ロイタ - 板 ・学習カ - ドへの記入 ・移動黒板に表示
	2、あいさつ	・注目して、礼をしっかりとしているか。	
展開 30分	3、学習内容の確認	・学習課題を的確に把握しているか。	・学習カ - ドの活用 ・移動黒板へ添付
	4、技のポイントを確認させる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 頭はね跳びや前方倒立回転跳びが安定してできるようになるう </div> [思考・判断・技能] ・技のポイントを把握する事ができたか。	
展開 30分	5、補助練習	・補助練習に協力して取り組んでいるか。	・セ - フテイ - マット
	6、頭はね跳び、前方倒立回転跳びに取り組む	・練習に主体的に取り組んでいるか。 ・よりよい姿勢で跳べるよう、意欲的に取り組んでいるか	
	7、技の発表 いくつかのグループを指名し発表させる	・積極的に発表に取り組んでいるか。 ・仲間の発表に賞賛の態度で見学できているか。	
終末 5分	8、まとめ	・今日の学習の自己評価や課題をまとめることができるか。	・学習カ - ドへの記入
	9、整理運動		
	10、あいさつ		